

巻頭言・目次

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 金沢大学保健管理センター 公開日: 2025-04-09 キーワード: 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/0002002388

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 4.0 International License.



ISSN 1883-4973

金沢大学保健管理センター一年報・紀要

第 17 号 (通巻51号)

(令和5年度, 2023年度)

金沢大学保健管理センター

巻 頭 言

保健管理センター長 吉川弘明

2024年1月1日16時10分に能登半島を震源とするマグニチュード7.6の令和6年能登半島地震が発生し、石川県志賀町と輪島市では震度7を観測しました。その後、震度5程度の余震が頻発し、同年6月3日には、マグニチュード6.0 震度5強の地震が起こっています。さらに2024年9月21日から23日にかけて、集中豪雨が能登半島を襲い、甚大な被害をもたらしました。複合災害の恐ろしさを、まざまざと見せつけられることになったのは、大変に残念な事でした。被災者の方々には、ここからお見舞い申し上げます。

金沢大学は2024年1月5日に、震災に関連した「こころのケア」にあたるKanazawa Educational Yell Psychological Assistance Team (KEYPAT)を発足させ、保健管理センターが統括して活動を開始しました。1月30日には、金沢大学から復旧・復興を支援する「能登里山里海未来創造センター」が設置され、KEYPATはこの中の1ブランチとして、活動を進めています。金沢大学には、能登地区にゆかりがある教職員や学生が多く、この方々が支援者として活躍できるよう個別のカウンセリングと集団への支援（食育プログラム、コンサート、講演会、リラクゼーション）を行ってきました。カウンセリングについては、人間社会学域、医薬保健学域の公認心理師資格を持つ教員の方々にご協力をいただきました。発災後6か月を経て、県外からの支援者が減少していく中、KEYPATは奥能登での活動を開始し、珠洲市と輪島市の学校、役所等での支援者支援を開始しました。実際に現場に入り、交流を持つことで、様々な課題を共有することが出来たとともに、能登の良さを感じる事が出来ました。KEYPATの活動は今後も、本学の支援と被災地の支援、個別の支援と集団の支援というかたちで進めてまいります。

一方、保健管理センターの本来の業務として、学生・教職員の健康管理業務、産業医・保健師による安全衛生業務、大学の入試やイベントに対する業務サポート、予防教育としての共通教育科目の開講、学内での安全衛生教育があります。また、本学独自の取組として、学生支援プログラム（食育プログラム、コンサート、リラクゼーション）があり、多くの学生たちが参加していきました。KEYPAT発足後は、共催として教職員にも学生支援プログラムを公開して、楽しんでいただいています。実際のところ、業務量は大変に多く、今後どのように機能を維持できるかは大きな課題となっています。学生支援プログラムが始まったのは、本学が2007年から3年4ヶ月実施した文部科学省選定事業 国立私立大学を通じた大学教育改革の支援 新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム（学生支援GP）からですが、その後、学内からのサポートで継続できたことがKEYPATの活動に大いに役立ちました。今後、これらの実績は能登の復旧・復興に役立てられていくものと期待しています。

保健管理センターは学内業務が中心の部局ですが、私たちはウェルネス向上のための健康教育と保健管理センターならではの研究活動にも力を入れてきました。教育活動は大学社会生活論の中の一コマ「健康論」の全学生に対する授業、自由履修科目の「心と体の健康」シリーズ、座学と実習を結び付けた「健康論実践」シリーズです。研究活動では「心を測る」というプロジェクトに取り組んできました。科研費などのサポートを受けつつ、企業との共同研究に発展し、先日もプレスリリースしていただけるような成果が出たことは喜ばしい限りです (DOI: <https://doi.org/10.1371/journal.pmen.0000240>)。神経内科医としてのキャリアが臨床心理学の専門家との協働に活かされたものと思います。今後は、得られた知見の社会実装に向けて取り組ん

でいきたいと思ひます。まず、KEYPAT の活動の中で生かされれば、本学のプレゼンス向上の一端になるかと期待しています。

保健管理センターは、KEYPAT 業務を兼担することになり、守備範囲が学外にも及ぶようになりました。私たちスタッフが丸となり進めてきた「心と体の育成」プログラムが学内だけでなく、学外にも良い影響を波及させ、進化する金沢大学の活動に沿って進んで行くことを願っています。今後とも、どうぞよろしくお願ひいたします。

2025 年 2 月

目 次

巻頭言

第一部 年報

I. 業務報告

1. 保健管理センターにおける主要行事…………… 1
2. 学生等に対する定期健康診断…………… 5
 - 1) 定期健康診断項目…………… 5
 - 2) 定期健康診断の受診現状…………… 7
 - (1) 受診状況…………… 7
 - (2) 受診状況の経年推移…………… 11
 - 3) 定期健康診断の内科診察結果…………… 12
 - 4) 定期健康診断の血圧測定結果…………… 12
 - 5) 定期健康診断の尿検査結果…………… 13
 - 6) 定期健康診断の胸部X線写真検査結果…………… 14
 - 7) 定期健康診断再検査実施状況…………… 15
3. 学生に対する保健活動…………… 16
 - 1) 保健管理センター利用状況…………… 16
 - 2) 学生相談に関する利用状況…………… 17
 - 3) その他の利用状況…………… 21
 - (1) 特別健康診断等…………… 21
 - (2) 各種証明書の発行…………… 21
4. 留学生に対する保健活動…………… 22
5. 教職員に対する健康診断…………… 23
 - (1) 一般健康診断…………… 23
 - (2) 特殊健康診断…………… 25
 - (3) その他の健康診断…………… 26
6. 教職員に対する保健活動…………… 28

II. 教育及び広報活動…………… 29

1. 学生等に対する保健衛生及び精神衛生指導…………… 29
2. 保健管理センターホームページ…………… 29
3. 学生支援プログラム…………… 31
4. 学生及び教職員に対するメンタル・ケアとカウンセリング法についての講習…………… 48

III. 研修等と安全衛生活動…………… 49

1. 研修・研究集会・講演会等…………… 49
 - 1) 令和5年度全国大学保健管理協会：東海・北陸地方部会 第50回保健管理担当職研究集会…………… 49
 - 2) 令和5年度全国大学保健管理協会：第61回東海・北陸地方部会研究集会…………… 49
 - 3) 第61回全国大学保健管理研究集会…………… 49

4) 令和5年度全国大学保健管理協会：第46回北陸地区保健管理担当職研究会	50
5) 第45回全国大学メンタルヘルス学会総会	50
6) 2023年度日本学生相談機関代表者協議会集会	51
7) 第57回全国学生相談研究会議	51
2. 金沢大学における安全衛生活動	52
IV. 資料	54

第二部 紀要

I. 業績	67
II. 研究報告	77
能登半島地震発生後の全学メンタルサポートチームKEYPATの活動 吉川弘明・足立由美	77
令和6年度学生・教職員の自死防止のための研修会 開催報告 足立由美	83

概要

I. 保健管理センター概要	89
1. 保健管理センター職員	89
2. 非常勤講師等	89
あとがき	90